道 みち

公益財団法人 仏教伝道協会

No.11
2022

BDK Newsletter





公益財団法人　仏教伝道協会
会長　木村 清孝

道 みち

11

CONTENTS

02 **公益財団法人 仏教伝道協会 令和3（2021）年度の主な活動**

1. 出版事業

●シリーズインタビュー「仏教聖典」を訪ねて　特別編
＊「仏教聖典ボランティア」～地域と共に歩む「仏教聖典」
●「仏教聖典」頒布の今　「仏教聖典」令和3（2021）年度の頒布状況等
●令和3（2021）年度 当協会出版物のご紹介
＊英訳大蔵経出版状況・その他出版物
＊「釈尊絵伝すごろく煩悩」発売
●「輝け！お寺の掲示板大賞　2021」開催
●第6回「こころの絵本大賞」受賞作品決定
●第8回「一日一訓カレンダーフォトコンテスト」開催
「第7回一日一訓カレンダーフォトコンテスト入選作品写真展」
●釈尊絵伝「聖地サールナートの仏伝壁画と野生司香雪」へ出品

10 **2. 助成・表彰事業**

●奨学金事業報告
＊「外国人留学生奨学金」制度のご紹介
＊「日本人留学生奨学金」制度のご紹介
●第55回「仏教伝道文化賞」贈呈式開催
●令和3（2021）年度「助成金事業」報告

16 **3. 啓蒙活動・支援事業・仏教講座の開催**

●オンライン法話会「週刊法話ステーション」毎週ライブ配信中
●FM大阪「サタデー★ナイト仏教」好評放送中
●令和2（2020）年度「沼田智秀仏教書籍優秀賞」受賞者記念講演
●仏教をより身近に　「伝道掲示板」「仏教ガチャガチャ」のご紹介
●「仏教聖典を経営に活かす会・生活に活かす会」年間開催報告
●仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」年間開催報告
●特別編「日本仏教における般若心経」開催
●「仏教を初歩英語で学ぶ会」年間開催報告
＊「お寺de英語」開催
●「仏教ヨガ講座」年間開催報告
●連続仏教講座「世界の仏教に学ぶPartⅡ」年間開催報告
●令和3（2021）年度「BDKシンポジウム」開催報告
＊第25回「どうなる仏教～アフターコロナ時代のあり方とは～」
＊第26回「宗教の未来を話そう2021～ポストコロナの宗教のゆくえ～」
＊第27回「現代社会の分断と調和を考える」

27 **4. ちょっとひと休み　仏教伝道協会SNSのご紹介**

28 追悼　第7代理事長　福山諦法禅師

29 **海外協力機関のご紹介**

●米国仏教伝道協会　●ハワイ仏教伝道協会　●メキシコ仏教伝道協会
●台湾仏教伝道協会　●アジア仏教伝道協会　●ヨーロッパ仏教伝道協会

38 **“ささえあって”「環境（かんきょう）」**

公益財団法人 仏教伝道協会
BUKKYO DENDO KYOKAI

BDKニュースレター No.11　2022-3,500　令和4（2022）年6月1日発行（毎年1回発行）

発行　公益財団法人仏教伝道協会
〒108-0014　東京都港区芝4-3-14
電話：03-3455-5851㈹
FAX：03-3798-2758

編集　江口　郁（公益財団法人仏教伝道協会）
印刷　株式会社アーク／デザイン 田所淳一



伝え広め続ける「正しい仏の教え」をいつまでも

平素より仏教伝道協会の事業にご理解ご協力を賜り、まことにありがとうございます。

令和2（2020）年の年明けから始まった新型コロナウイルス禍中での生活も、はや2年を超えました。その中で、今まで日常と思っていたことの多くがそうではなくなり、私たちの生活は大きく変わりました。

当協会の活動も、さまざまな面においてその影響を受け、一定の制約と変更を余儀なくされました。国と国との往来が制限され、奨学生に関わる事業の進行をやむを得ず停滞ないし遅延せざるをえなかったことは、中でも大きな悩みでした。

しかしながら、「仏教聖典」の頒布をはじめとする諸事業の大半を実施し、活動をさらに発展させることができました。これは、ひとえに皆さま方のご支援ご協力のお蔭です。心より御礼申し上げます。

私どもの使命は、正しい仏の教えをいつまでもこの世にとどめ、広め続けることです。とくに今は、これからの世界を担う若い世代の人たちに仏教の魅力と仏教思想の重要性を伝えることが大切だと考えています。当節の困難な時期を皆さまとともに乗り越え、使命を着実に果たしていく所存ですので、引き続きご支援ご教導くださいますよう、お願い申し上げます。

合　掌

シリーズインタビュー



「仏教聖典」を訪ねて 特別編

「仏教聖典ボランティア」
～地域と共に歩む「仏教聖典」～

◎取材協力：海野峻宏師（黄檗宗宝林寺新堂）　◎聞き手：増田将之（公益財団法人仏教伝道協会）
◎編集・撮影：江口郁（公益財団法人仏教伝道協会）　◎場所：公益財団法人仏教伝道協会
※インタビューは感染対策を万全にした上で実施しました（写真撮影時のみマスクを外しています）



宝林寺（海野師自坊）

仏教伝道協会では、主軸事業のひとつである「仏教聖典」の頒布活動を継続的に行ってまいりましたが、近年はホテル・旅館などの宿泊施設はもとより、寺院、医療施設などに加え、教育機関でも使用されるなど、様ざまな活用がされています。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を受け、何かと見通しづらい状況でも「仏教聖典」を少しでも多くの方と共有すべく、当協会ではそれぞれの地域で「仏教聖典ボランティア」として活動してくださる方を募集。令和３（２０２１）年現在、57名の僧侶の皆さまにご協力いただいています。

「仏教聖典ボランティア」とは、「仏教聖典」を各地の宿泊施設に設置していただけるよう、その良さを当協会に代わってＰＲし、仏教思想や文化をひろめてくださる僧侶の皆さまです。今回は「仏教聖典ボランティア」として、一人でも多くの皆さまへ「仏教聖典」を届ける活動をお手伝いいただいている海野峻宏師（黄檗宗宝林寺新堂）に実際にどのような活動をされているのか、またどのような思いで参加してくださっているのか、お話を伺いました。

増田（以下増） いつもご協力いただきありがとうございます。まずは読者の皆さまに向けて、ご自身やご自坊について簡単にご紹介いただけますか。

海野（以下海） この度は貴重な機会をありがとうございます。私は黄檗宗という宗派に属しており、本山は京都府宇治市にある萬福寺という中国を彷彿とさせる異国情緒溢れるお寺です。自坊は群馬県の最南部に位置する邑楽郡千代田町にある宝林寺というお寺です。元々は臨済宗のお寺だったのですが、その後黄檗宗となり、北関東最初の道場として再興されました。中興開山である潮音道海禅師が館林に創建された萬徳山広済寺（徳川綱吉公開基）の住職を兼務しており、後に廃寺となった際、仏像や梵鐘等什物が宝林寺に移されたことから、広済寺の本尊他８躰の仏像が群馬県重要文化財に、また、潮音道海禅師肖像図、白衣観音図が千代田町重要文化財に指定され長い歴史と共に歩んでまいりました。

増）なるほど。当協会は東京都にありますが、これまで群馬県では、なかなかきめ細やかな活動ができていませんでした。素晴らしいご縁をいただき大変ありがたいです。では今回なぜ「仏教聖典ボランティア」の活動に参加してくださったのですか？

海）以前「お寺ステイ」という宿坊の運営を行っている会社におりまして、全国の宿坊を運営するお寺さんとのご縁が多かったため「仏教聖典ボランティア」の活動を始めやすい環境だった、というのが大きいですね。

増）ありがとうございます。各地の宿泊施設にお声がけさせていただく場合、私たちと施設との間に海野さんのような地元をよく知るお寺さんに入っていただいた方が円滑に進むことが多いため「仏教聖典ボランティア」の皆さまには本当に感謝しかありません。今まで全く当協会と繋がりのなかった地域にも皆さまのお蔭でご縁をいただけるようにもなり、「仏教聖典」の輪が少しずつひろがりを見せていると感じていますが、活動を通じ実際に手にとってくださる皆さまとの交流の中で何か感じたことはありますか？



海）はい。一番鮮明な記憶としては、コロナ前の話になってしまいますが、岐阜県高山市のある宿坊で海外の方々に「仏教聖典」を手に取っていただいたことがありました。日本には旅行で滞在されていて〝もうすぐ帰国してしまうので、読み終えないからデータでほしい〟との要望があり、仏教伝道協会さんの公式サイトで無料の各国語ＰＤＦ版が公開されていることを案内させていただくと大変喜ばれました。読み終わらないからデータでほしいという発想は海外の方ならではと感じましたし、母国語で読むことができるという点が非常に良かったのだと思いました。

個人的な印象としては、日本の方のイメージではキリスト教＝聖書（バイブル）のような感じだと思うのですが、仏教＝「仏教聖典」のような、それに限りなく近い位置づけで紹介ができるものだと思うのです。日本仏教は宗派が多いので、ひとつのものを作ることは難しいですが、それに近い存在になることを願っています。

そして私自身、一僧侶としての立場から申しますと、宗派関係なくお話をさせていただく機会を持つことができるので大変有難いと感じています。「仏教聖典」という共通言語的存在があると話がしやすく繋がりがひろがっていく良い機会になっています。

増）そのように仰っていただいて非常にありがたいです。私たちも今後「仏教聖典」が〝共通言語的存在〟に育っていってくれたらと願っています！　ですが現在はコロナの状況が続いていますので「仏教聖典」を置いていただく宿泊施設自体が非常に厳しい状況に追い込まれているのではないでしょうか？

海）宿泊と言う点では仰る通り、現在は大変厳しい状態ではありますが、私が現在、重点的に活動しているゲストハウスという業態は接触機会が少ないのでコロナ禍でも旅館やホテルなどに比べてダメージは小さいと感じています。ゲストハウスは主に一棟貸しなので、チェックイン後は施設内で不特定多数の方と接触する機会が少なく、スペースも広いためゆっくりとくつろいでいただけます。

増）なるほど。ひとくちに宿泊施設といっても現在は様ざまな形態がありますね。当協会が「仏教聖典」の頒布活動をはじめた当時は宿泊施設＝客室数の多いホテルというのが当たり前でしたから、私たちにはない視点で活動の幅をひろげてくださって本当にありがたいことです。ですが、正直この活動は僧侶の立場からして重荷になっていませんか（笑）？



海）私は、信頼関係のある関係先にお声がけさせていただいていますから全く問題ありませんよ（笑）！　アプローチの方法は人それぞれかと思いますが、私の場合は自坊の活動以外に民間企業で働いている経験がボランティア活動にも活かされているのかもしれません。正直に申しますと、お寺の一員として僧侶として突き詰めて活動していると世の中とどんどん離れていくような感覚になることがあります。ですが、お寺以外で生活されていて、たくさんの方と直接お話する機会を持つことができるので、世の中の感覚を知ることができ、地元であっても自坊の存在自体を知らなかった人たちと出会うきっかけにもなりますから本当に勉強になります。

また、「仏教聖典」は寄贈をさせていただくので、一般的に〝無償ほど怖いものはない〟と思っている人は多く相手が逆に身構えてしまう場合もあるため、あらかじめ何も要求しないことをお話し（苦笑）、なぜこの活動に携わることになったのかの経緯を説明した上で「仏教聖典」寄贈に対する私なりのス

トーリーを伝えさせていただくと安心してくれます。

増 そうですよね。〝寄贈〟と聞くと逆に不安になる方も多いのが現実ですよね（笑）。そこで海野さんのように、こういう経緯で手伝うことになったとしっかり伝えていただくと当協会と宿泊施設の方との潤滑油のようになって安心感を与える事ができます。

海 宿泊施設のオーナーの方がたとしては他にも宗教はあるので特定の宗派ではないにしろ仏教だけを採用しづらいという状況はありますし、菩提寺はあれどもご自身を仏教徒であると自認しているケースが全てではないのが実状ですから、「仏教聖典」を置くこと自体にハードルが高いことはあります。また大規模なホテルになればなるほど特に仏教だけを採用することは難しく、そういったところでは活動する上で難しい一面もあります。

増 そうですよね。ですが、ボランティアの方が間に入ってくれているお陰でなぜ不要なのか必要なのかの理由を知ることもできていますから、いずれにせよ当協会としては現場の正直なお声を聞くことができありがたいです。ボランティアの皆さまと宿泊施設の方がたとの信頼関係の上で話ができますから、長期的に見ても率直なご意見を伺うことができます。

今後のコロナの収束を願いつつ、「仏教聖典ボランティア」に参加を検討していただける僧侶の皆さまもおられると思いますので何か一言お願いできますか？

海 「仏教聖典」を通じて社会との新たな接点を持つことができるため、コロナ禍という状況もありますが、お寺の中だけでなく、活動範囲をひろげたい方こそチャンスだと思います。特に社会からどのようにお寺が見られているか知る良いきっかけになるはずですし、個人的には様ざまな意味で僧侶自身のスキルアップにつながっていると思います。

増 コロナの影響でなかなかお寺の外へ向けた活動が出来ない状況があり、交流したくてもできない日々が続きましたからね。ボランティアの皆さまは、地元とのつながりを第一に考えながら活動してくださっていますから本当にありがたいです。

海 宿泊施設の従業員の方が自坊の檀家さんという可能性もありますし、私の場合はコロナ禍だからこそということは特にありませんでしたが、各地域の事情に合わせたアプローチの方法が重要だと思います。

増 当協会の活動や「仏教聖典」の認知度が非常に低い地域もありますが、ボランティアの皆さまの存在を通じて当協会の存在や活動内容を知っていただくきっかけになっていますし、今後はボランティアの皆さま同士の交流を深めて全国的な輪を作っていけたらと考えています。

海 「仏教聖典」を置くことがデメリットにはならないとは思いますが、なぜか置いていただけない、そのような状況にも寄り添い、地域性を把握して言語の選択を考えてみたりすることも重要かと思います。母国語で読むことができると言うことは重要な要素ですからね。また、なぜ寄贈したいのか、仏教伝道協会さんの活動意義に加え僧侶自身の思いを乗せてお話すると伝わりやすいのではないでしょうか。

増 貴重なご意見をありがとうございます。今後活動してみたいと思ってくださる僧侶の皆さまがいらっしゃいましたら、ぜひ海野さんのご経験を参考にしていただけたらと思います。本日はありがとうございました。

今回は、コロナ禍でも「仏教聖典ボランティア」として積極的に活動いただいている海野峻宏師にお話を伺いました。世界的に不安定な情勢が続く中、「仏教聖典」という一冊の本が繋ぐ可能性を再認識すると共に宿泊施設の新たな可能性を感じ、今何が必要なのかを改めて考える良い機会となりました。

※「仏教聖典」やその他出版事業に関するお問い合わせは、仏教伝道協会公式サイトをご確認ください。
https://www.bdk.or.jp



海野峻宏

うみの・しゅんこう

黄檗宗宝林寺 新堂/㈱GLOCALマネージャー/合同会社得心 代表社員/観光庁 城泊寺泊による歴史的資源の活用専門家派遣事業 準専門家/未来の住職塾NEXT 1期生/大本山萬福寺専門道場にて修行

複数のベンチャー企業での経験を活かし、寺泊推進や寺院周辺地域の活性化をはかる。現在は㈱GLOCALにてゲストハウス等の宿泊施設運営のプロフェッショナルとして活動する傍ら、お寺のDXを促進するためのサービスを開発中。

01 Activity 「仏教聖典」頒布の今 令和3（2021）年度の頒布状況等

2021年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響で「仏教聖典」頒布には大変厳しい状況となりました。夏には東京オリンピックが開催されましたが、2021年の訪日外国人数は前年の約411万人を大きく下回る約24万人。宿泊施設での宿泊者数が大幅に減少する中、日本国内のホテルや宿坊に3,813冊の聖典を寄贈することができました。新規で寄贈をさせていただいたホテルや宿坊の中には「仏教聖典ボランティア」の方がたのご協力により実現できたものも数多くありました（詳しくはシリーズインタビュー：P.2をご覧下さい）。また、日本から海外へのホテルに対しては新たにネパールのサランコットホテルなどに寄贈をさせていただきました。

仏教系学校・保育施設等への寄贈に関しても新型コロナウイルスの影響で例年より大幅に減少しましたが、21,782冊を頒布することができました。今後も国内外へ「仏教聖典」寄贈を積極的に働きかけてまいります。

〈2021年の「仏教聖典」頒布状況〉　1月～12月

		件　数	寄贈冊数	販売冊数
国内	ホテル(新規)	34	2,351	
	ホテル(補充)	27	1,462	
	病院(新規)			
	病院(補充)	4	24	
	学校(販売)	8		12,335
	学校(寄贈)	152	21,782	
	寺院(販売)			1,014
	寺院(寄贈)		45	
	一般他販売			318
	書店			1,181
	寄贈		483	
	国内頒布数計		26,147	14,848
海外	海外協力機関		50	
	ホテル	3	165	
	その他			
	海外頒布数計		215	
			26,362	14,848
総　計				41,210





客室に設置されている「仏教聖典」（サランコットホテル）



サランコットホテル

02 Activity 令和3（2021）年度 当協会出版物のご紹介

英訳大蔵経出版状況・その他出版物

毎年刊行している法話集『みちしるべ』の「六波羅蜜」シリーズは、昨年度の初巻『布施―施しのこころ―』に引き続き、本年度は山川宗玄師（臨済宗妙心寺派）、林田康順師（浄土宗）、白川密成師（高野山真言宗）の3名にご執筆いただき、『持戒―よりよく生きる―』を2021年6月に発刊しました。本作も様ざまな宗派の観点から「一日一訓カレンダー」の文言をやさしく説き明かしています。

英訳大蔵経シリーズは、9世紀に般若によって漢訳

された『大乗本生心地観経』と、7世紀に玄奘によって漢訳された瑜伽行派の祖・弥勒の論書『弁中辺論』、バクトリアの王メナンドロスと仏教僧ナーガセーナとの対論を記した「那先比丘経」を合冊した『弁中辺論・那先比丘経』の2冊が刊行されました。

また、ご好評いただいている小冊子『はじめての仏教』に、新たにスペイン語版が加わりました。メキシコなど、スペイン語圏における仏教伝道の現場での活用が期待されます。



BDK「英訳大蔵経」

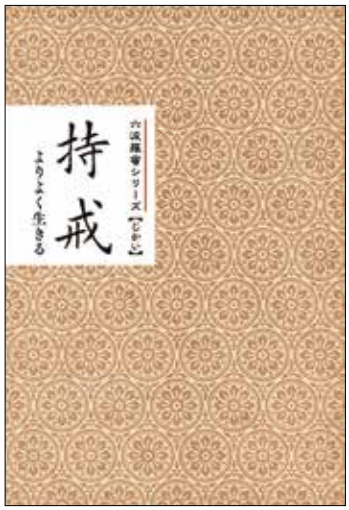
『釈尊絵伝すごろく 煩悩』発売

当協会が所有する野生司香雪画伯の「釈尊絵伝」と、曹洞宗大本山永平寺が所蔵する「初転法輪寺壁画下絵」を使用した『釈尊絵伝すごろく 煩悩』を2，000部限定で製作しました。すごろくは両面仕様となっており裏面には江戸時代に庶民の間で親しまれ、絵の入った双六の元祖とも言われる『浄土双六』のイラストを新たに描き起こし、復刻しました。

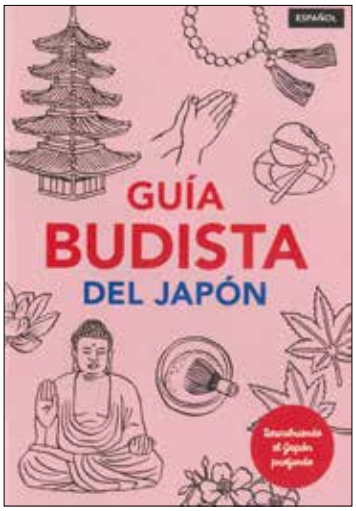
表面の『釈尊絵伝すごろく 煩悩』では、様ざまな煩悩を抱えながらも、それらをなくして涅槃に至ることを目的とし、釈尊の一生を学ぶことができる内容となっています。

裏面の『復刻版 浄土双六』は、サイコロの目は1～6の数字ではなく「南無分身諸仏（なむぶんしんしょぶつ）」の六字を用い、出た文字によって進む場所がきまる仕組みで、我々人間が住む「南閻浮洲（なんえんぶしゅう）」からスタートしゴールとなる「仏」を目指していきます。

気軽に釈尊の一生を学ぶことができる『釈尊絵伝すごろく 煩悩』を通じて涅槃を目指す体験をしてみてはいかがでしょうか。



みちしるべ『持戒』



「はじめての仏教」スペイン語版



「釈尊絵伝すごろく煩悩／復刻版浄土双六」



大賞受賞作品（撮影：超覚寺）

Activity 03

「輝け！お寺の掲示板大賞2021」開催

第４回目となる「輝け！お寺の掲示板大賞２０２１」を開催しました。この企画は初回以来、大きな話題を呼んでおり、今回も多くのメディアでとりあげられました。その結果、７月１日～10月20日までの応募期間の間に過去最高の２，８８７作品の応募がありました。

大賞は、超覚寺（広島県・真宗大谷派）の作品「仏の顔は何度でも」。「仏の顔も三度まで」ということわざは大変有名ですが、仏さまは三度くらいで腹を立てるような方ではなく「仏の顔は何度でも」のほうが仏さまの表現としては正確であることを知ってもらいたいという思いで大賞となりました。

また、仏教伝道協会賞には３作品が選出されました。特に妙慶院（広島県・浄土宗）の作品「置かれた場所で咲けないときは逃げてもいいよ　咲けるところへ」は現在の状況に深く悩んでいる方がたの心をとらえ、大変大きな反響がありました。

Activity 04

第６回「こころの絵本大賞」受賞作品決定

〝読み聞かせを通じて、子どもたちに「こころ」の大切さを伝えたい〟という願いのもと、第６回「こころの絵本大賞」を開催しました。【協賛―鈴木出版㈱　後援―毎日新聞社、（公社）日本仏教保育協会、（公財）全国青少年教化協議会】

第６回目となる令和３（２０２１）年度の募集には、幅広い年齢層から、計１４５の作品が集まりました。長引くコロナ禍の影響もあってか、応募総数が大幅に増加した第５回目（１４６作品）とほぼ同数の作品が集まりました。児童文学者の西本鶏介氏、絵本作家の藤本ともひこ氏、鈴木出版編集長の波賀稔氏による厳正な審査の結果、大賞１作品、優秀賞３作品、佳作５作品が決定しました。

大賞に選ばれたのは、山川典夫氏の『しろくまがきたぞ！』。この世のすべてのものは互いに影響しあい繋がっていることを表現した〝しろくま〟の存在と子どもたちとの交流をユーモラスに描いた作品です。



第6回大賞「しろくまがきたぞ！」

大賞受賞者の山川氏には賞金50万円を贈呈、同作品を令和４（２０２２）年３月に出版しました。

Activity 05

第8回「一日一訓カレンダーフォトコンテスト」開催

「第7回一日一訓カレンダーフォトコンテスト入選作品写真展」

（於 築地本願寺・平等院・瑞巌寺）


審査の様子


鈴木猛利氏による書道パフォーマンス（於：平等院）

■第8回一日一訓カレンダーフォトコンテスト

平成26（2014）年より毎年開催している当コンテストは、今回で第8回目（2023年カレンダーに掲載）を迎えました。応募総数は824件2，791枚と2年連続最多枚数を更新しました。

令和3（2021）年9月にカレンダーフォトコンテスト選考委員会を開催し、表紙を含む32枚を選定、入選者に賞状と賞金を贈呈しました。入選作品は当協会公式サイトでもご覧いただけます。

■第7回一日一訓カレンダーフォトコンテスト入選作品写真展

「第7回一日一訓カレンダーフォトコンテスト」の入選作品の写真展を2021年4月24日から6月13日まで築地本願寺本堂（東京都中央区）、6月25日から9月26日まで平等院ミュージアム（京都府宇治市）、10月8日から11月24日まで瑞巌寺本堂（宮城県宮城郡松島町）にて開催しました。

平等院の写真展では、書道家の鈴木猛利さんによる書道パフォーマンスが披露され、午前の部では「泥中之蓮（でいちゅうのはす）」、午後の部では「雲外蒼天（うんがいそうてん）」の文字を揮毫していただき会場を沸かせました。来場者数は、3会場で18万人と、多くの方がたに写真と仏教的な金言名句に親しんでいただきました。


築地本願寺本堂写真展

Activity 06

「聖地サールナートの仏伝壁画と野生司香雪」へ出品（於インド大使館）



関係者によるテープカット

令和3（2021）年7月16日から7月23日まで、インド大使館（東京都千代田区）において開催された「聖地サールナートの仏伝壁画と野生司香雪」（主催：野生司香雪画伯顕彰会ほか）に、当協会所蔵の「釈尊絵伝」（『牧女の供養』・『涅槃』）を出品しました。


「釈尊絵伝」（左：涅槃　右：牧女の供養）

7月16日の開展式典では、関係者によるテープカットとフォーラムが開催され、展覧会には野生司画伯の作品18点が展示された他、インドの初転法輪寺壁画の保存修復の様子などが紹介されました。

画伯が手掛けた様ざまな作品が集まるインド大使館でのイベントに「釈尊絵伝」を出品できたことは大変貴重な機会となりました。

その他当協会出版事業に関するお問い合わせや書籍他のご購入については、当協会公式サイト内オンラインショップをご確認ください。
https://www.bdk.or.jp

■奨学金事業報告

「外国人留学生奨学金」制度のご紹介

仏教伝道協会では、「外国人留学生奨学金」および「日本人留学生奨学金」（通称：BDK奨学金）を設置し、仏教研究を志す皆さまを支援する奨学金事業を展開しています。

＊　＊　＊

「外国人留学生奨学金」は、海外から来日し仏教研究をする外国籍の学者、研究者または学生に対して、それぞれが自国に戻り、日本で学んだ仏教精神、文化等を、学問を通じ、ひろく世界に伝えていただきたいとの願いから平成3（1991）年に設立されました。

令和5（2023）年度奨学生募集再開のお知らせ

新型コロナウイルスの世界的感染拡大により奨学生の募集を停止していましたが、令和4（2022）年3月より第32回目となる令和5（2023）年度奨学生の募集を開始しました。（募集要項など申込に関する詳細は、当協会公式サイトをご確認ください。https://www.bdk.or.jp）



第30回 令和2（2020）年「外国人留学生奨学金」受給者のご紹介

なかなか当初の計画通りに来日が叶わない奨学生が続出する中、無事に来日を果たし受給期間を終えることができた奨学生に感想を伺いましたのでご紹介します。

1 仏教伝道協会の奨学金制度への応募のきっかけ
2 受給して最も良かったと思うこと、今後の展望
3 日本の生活で一番気に入っているところ（または驚いたところ）

◇Choten Dorji（チョーテン・ドルジ）

■受給期間：2020年11月～2021年10月
■国　籍：ブータン
■所属機関：京都大学
■指導教授：宮崎泉教授
■研究内容：塞建陀羅著『入阿毘達磨論』に対する注釈 *Sārasamuccaya* の訳注研究

1 2016年、私はタイのマヒドン大学における文献研究の博士課程の学生として在籍していた時、同大学で教鞭をとられていた張本研吾先生にお会いし、先生のクラスにも参加していました。マヒドン大学での研究を終えた時、研究仲間から仏教伝道協会の奨学金制



左：Choten Dorji師　右：青木常務理事

に貢献していきたいと考えています。そして、私は母国（ブータン）で、特に仏教協会や仏教団体から承認をいただき、仏教研究や文献研究の分野においていくつかの役職もいただくことができました。

3 日本で暮らすすべての外国人にとっては、どんな思い出もそのすべてが魅力的なものであり、私にとってもそうでした。２０２０年の日本滞在は私にとって二度目の滞在でしたが、最も思い出に残るものとなりました。

　私は京都大学から徒歩圏内に住んでいましたが、伝統建築と現代建築によって建てられた日本家屋を眺めながら歩く帰り道が大好きでした。研究生には共同研究室が与えられ、そこには常に様々な研究分野の研究生たちが集っていました。世界各国からの様々なバックグラウンドを持つ人たちと、研究領域を超えて意見交換をするには最適な場所でした。

　そして何よりも、宮崎泉先生の研究室で先生と一緒に仏教経典の講読を行ったことが私にとってかけがえのない思い出です。また、京都で暮らすという貴重な経験の中で、とても素晴らしい歴史的な数々の寺院、そして、京都と香川にある二つのブータン式寺院を訪れることもでき、忘れられない思い出となりました。

※第31回令和３（２０２１）年奨学生については、新型コロナウイルスの感染拡大状況により当初の予定通りに来日が叶わなかったため次号以降に掲載させていただく予定です。

度についての話を耳にしました。張本先生にもお聞きしたところ、先生はとても親切に、申請時期やその方法などの詳細について教えてくださいました。張本先生は、後に私の研究を指導してくださることになった日本の学者の方（宮崎泉先生）を私に紹介してくださいました。そのことが最終的に、私を仏教伝道協会の奨学金制度への申請へと導いてくれました。奨学生の一人になれたことを大変嬉しく思っております。

2 一番良かったことは、日本の学者の方がたと一緒に研究をすることができたことです。幸運にも、私は京都大学で研究をする機会に恵まれ、宮崎泉先生のご指導の下、有意義な研究生活を送ることができました。

　今後は将来的に、仏教文献の研究、翻訳、編集などの分野において、仏教伝道協会の皆様と共に、広範囲にわたる研究に携わっていくことを望んでいます。これまでの感謝の意を込め、仏教伝道協会の活動や研究

■奨学金事業報告

「日本人留学生奨学金」制度のご紹介

「日本人留学生奨学金」は、日本から海外へわたり国際的な視野を養い、将来の仏教学術振興に貢献しうる日本人の若手研究者を育成したいという願いから、平成24（2012）年に設立されました。

＊　＊　＊

第8回目となる令和2（2020）年度の奨学生が先に選出されていましたが、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響を受け渡航ができない状況が発生したため、残念ながら一部の奨学生が計画通りに研究を進めることができない日々が続いています。

本頁では、そのような状況下でも無事渡航先にて奨学金受給期間を終えることができた2名に感想を伺いましたのでご紹介します。



「日本人留学生奨学金」制度PRポスター

1 仏教伝道協会の奨学金制度への応募のきっかけ
2 受給して最も良かったと思うこと、今後の展望
3 滞在国での生活で一番気に入っているところ
（または驚いたところ）

〈長期留学支援〉

◇石村（中須賀）美幸（いしむら（なかすか）みゆき）

■受給期間：2020年4月～2020年9月
2021年4月～2021年9月（12ヵ月）
■留学先・所属機関名：オーストリア・オーストリア科学アカデミー アジア文化・思想史研究所
■指導教授名：ビルギット・ケルナー教授
■研究内容：仏教論理学派におけるアポーハ論思想史の解明


左からDr. Cristina Pecchia、 Dr. Stefan Köck、 石村氏

1 以前から、海外の研究機関で経験を積みたいと考えており、当奨学金制度に応募しました。所属先として選んだオーストリア科学アカデミー アジア文化・思想史研究所は、仏教認識論・論理学研究の中心地であるため、一度はここで研究をしたいと考えていました。

2 同研究所で現在進められているディグナーガの『プラマーナ・サムッチャヤ』第5章（アポーハ章）のジネーンドラブッディ註研究プロジェクトに参加し、未出版のサンスクリット校訂テキストを読解する機会を得ることができました。また、この度の留学がきっかけで、オーストリア科学研究促進基金（FWF）による研究助成で、4年間ウィーンにて研究できることになりました。博士号取得後、全く所属先の目処が立っていなかった状態

から、この留学を機に研究者としての未来を切り開くことができ、当奨学金制度にはとても感謝しております。

3 滞在中は、コロナ禍のため、研究所に通うことはなく下宿先で研究し、観光なども全くしませんでした。近くの市場で新鮮な果物や野菜を買うことが唯一の楽しみでした。ウィーンでの生活で一番驚いたのは、水道水がアルプスの湧き水だったことです。蛇口を捻ればミネラルウォーターが出てくる国が存在することに衝撃を受けました。



教室での授業風景（左：エルツィンガー教授）

〈短期留学支援〉
◇京極祐希（きょうごく　ゆうき）

■受給期間：2021年11月～2022年1月（3ヵ月）
■留学先・所属機関名：フランス・パリ高等研究実習院　宗教学部門
■指導教授名：ヴィンセント・エルツィンガー教授
■研究内容：ダルマキールティ著『プラマーナ・ヴァールッティカ』「直接知覚章」におけるアポーハ説の研究



京極氏

1 日本人の教授に応募してみたらどうかと勧めていただいたから。

2 博士論文に対してすばらしいアドバイスをいただけたこと、また今考えている研究テーマについても話し合うことができたこと。今後の展望としては、今回の研究成果の一部を指導教授と共著で公開する予定である。また、博士論文についても本来計画していたスコープでは時間がかかりすぎるので、やるべきものを絞ってなるべく早く提出したいと考えている。

3 思わず入りたくなるようなおしゃれなカフェが街のいたるところにあったこと。

※第9回令和3（2021）年奨学生については、新型コロナウイルスの感染拡大状況により当初の予定通りに渡航が叶わなかったため次号以降に掲載させていただく予定です。

第55回「仏教伝道文化賞」贈呈式 開催

於 仏教伝道センタービル 2021年10月14日


第55回仏教伝道文化賞受賞関係者

令和3（2021）年10月14日、第55回仏教伝道文化賞贈呈式ならびに祝賀披露宴を執り行い、盛会のうちに円成しました。

仏教伝道文化賞受賞者の小川一乗師は、長年にわたりインド大乗仏教の研究や親鸞聖人が学んだ龍樹菩薩の仏道を究明し教化活動にも尽力した功績を讃えられました。

スピーチでは、恩師の山口益氏の名前を挙げてその御恩に感謝を述べられました。そして「一人でも多くの人が仏法に出会ってほしいという願いを持ちながら、実際は自分自身が仏法に出会いながら人生を歩み続けてきた」と振り返りました。


小川師受賞スピーチ

仏教伝道文化賞沼田奨励賞を受賞した高岡秀暢師は、「ともに生きる」を理念に、自坊で外国人を受け入れるほか、ネパールに伝わるサンスクリット典籍や祭儀等の文化財保存に尽力されました。「ネパールなどアジア各国や国内でのたくさんの出会いが今日の私を形作った。感謝の気持ちを忘れずこの先の道を切り開いていきたい」とスピーチを締めくくられました。


高岡師へ楯の贈呈



令和3（2021）年度「助成金事業」報告

仏教伝道協会では、当協会の公益事業目的に賛同し、国内外にて積極的な活動を行っている個人または団体を支援するため、活動助成金を交付しています。

2021年度は18件の申請があり、公正な審査を経て下記の通り12の団体への助成金交付が決定しました。「助成金制度」についての詳細は、当協会公式サイトをご確認ください。
https://www.bdk.or.jp/bdk/jyosei/jyoseikin.html

■ A. 団体支援助成

団体名	申請事業内容
日本印度学仏教学会	情報化対応を介した国際的学術交流及び文化貢献の促進事業
特定非営利活動法人鎌倉てらこや	鎌倉てらこやー大学・寺社・行政・市民ボランティアの協働による地域コミュニティ再興事業ー
フリースタイルな僧侶たち	フリースタイルな僧侶たち フリーペーパーの発行、WEB、イベント開催事業

■ B. 事業支援助成 - B-1.仏教精神・文化普及活動及び人道支援活動

団体名	申請事業内容
公益財団法人全国教誨師連盟	教誨師研修事業
H1法話グランプリ実行委員会	H1法話グランプリ2021
一般社団法人Project Gamon	仏教フリーマガジン「わげんせ」発行事業
公益社団法人大谷保育協会	保育心理士資格取得講座
島根県仏教会	第45回 全日本仏教徒会議 島根大会

■ B. 事業支援助成 - B-2.仏教学術振興活動

団体名	申請事業内容
公益財団法人中村元東方研究所	2021年度 研究調査事業
公益財団法人日独文化研究所	日独の四つの研究所が共催するワークショップ「仏教とキリスト教の〈自然〉概念」（※申請事業中止のため未交付。）
龍谷大学 龍谷ミュージアム	2021年度 秋季特別展「アジアの女神たち」

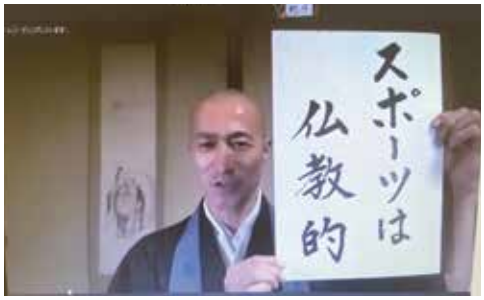
■ B. 事業支援助成 - B-3.仏教文化財保護活動

団体名	申請事業内容
東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復彫刻研究室	調査・修復・模刻を通した仏教彫刻文化財を守る人材育成事業



3 啓蒙活動・支援事業・仏教講座の開催
Enlightenment / Support / Buddhism course

01 Activity オンライン法話会「週刊法話ステーション」毎週ライブ配信中



2021年7月14日　海野義範師


2021年11月24日　松浦俊昭師



2021年9月1日　成田淳教師



2022年1月19日　神田英昭師

令和3（2021）年1月から放送を開始したオンライン法話会「週刊法話ステーション」。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を機に、ZOOMのウェビナー機能を用いて毎週水曜日夕方6時から6時半の時間帯に毎月設定したテーマに沿って様ざまな宗派の僧侶の皆さまにお話しいただいています。令和4（2022）年1月に放送1周年・50回を数え、配信終了後に仏教伝道協会公式YouTubeへアップしている法話動画の再生回数も最大2000回以上を記録しており、多くの皆さまからご好評いただいています。

令和4（2022）年度も引き続き配信していますので、ぜひご覧ください。

■視聴者からの声

・法話を聴くことを生活の一部にしようと思いました。
・週に一回の短くも人生の糧となるひと時になると思います。
・集中していられるちょうど良い時間でした。
・オンラインで遠くのお寺からのお説法を聴くことができることの有難さを改めて感じました。
・難しく構えて聴いてしまいがちな宗教のお話を、気負わずに聴けてよかったと感じました。

※2021年度各回担当講師の詳細、2022年度の配信予定については当協会公式サイトをご確認ください。
https://www.bdk.or.jp

2021年度テーマ

4月	家　族	10月	教　育
5月	時　間	11月	芸　術
6月	恋　愛	12月	ジェンダー
7月	スポーツ	1月	お　金
8月	福　祉	2月	働き方
9月	動　物	3月	友　情

Activity 02

FM大阪「サタデー★ナイト仏教」好評放送中

平成30（2018）年6月から放送を開始したラジオ番組「仏教伝道協会presents 笑い飯哲夫のサタデー★ナイト仏教」は放送4年目を迎え、仏教の魅力を多くの方に伝えています。



すゑひろがりず（両サイド）、哲夫氏（中央）

仏教をわかりやすく、楽しく伝えるラジオ番組「笑い飯哲夫のサタデー★ナイト仏教」は、放送時間を令和2（2020）年4月から15分（毎週土曜深夜24時15分～30分）に拡大。令和3（2021）年度は、ゲストとして僧侶と著名人を月替わりでお招きしています。著名人との掛け合いでは、より多角的かつ親近感のある仏教を、僧侶との掛け合いでは、より深く仏教を伝えています。

放送開始時から継続しているポッドキャストの総再生回数は200万回を超え、SNS上で拡散されるなどして徐々にファンを増やし、仏教に触れる機会が少ない方でも気軽に仏教の魅力を知ることができる機会となっています。


塩沼師（左）、哲夫氏（右）

2021年度ゲスト（敬称略）

4月	戸松義晴（浄土宗僧侶、全日本仏教会理事長）	10月	小池陽人（真言宗須磨寺派僧侶、須磨寺副住職）
5月	武井　壮（タレント、元陸上競技選手）	11月	サンキュータツオ（お笑い芸人、日本語学者）
6月	唐溪悦子（浄土真宗本願寺派僧侶）	12月	井上広法（浄土宗僧侶、光琳寺住職）
7月	為末　大（元陸上競技選手、スポーツコメンテーター）	1月	すゑひろがりず（お笑いコンビ）
8月	塩沼亮潤（金峯山修験本宗僧侶、福聚山慈眼寺住職、大阿闍梨）	2月	緑川明世（天台宗僧侶）
9月	小籔千豊（お笑いタレント、喜劇俳優）	3月	倉本美津留（放送作家、作詞家、作曲家）

Activity 03

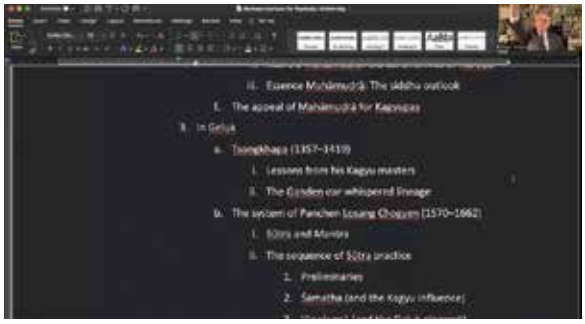
令和2（2020）年度「沼田智秀仏教書籍優秀賞」受賞者記念講演　オンライン開催

2022年2月8日

2020年度に沼田仏教書籍優秀賞を受賞したMind Seeing Mind: Mahāmudrā and the Geluk Tradition of Tibetan Buddhismの著者であるロジャー・ジャクソン氏（アメリカ・カールトン大学）をお招きし、龍谷大学世界仏教文化研究センターとの共催にて、令和4（2022）年2月8日、受賞者記念講演会をオンライン開催しました。



講演会のフライヤー


講演会の様子（ロジャー・ジャクソン氏）

Mind Seeing Mind: Mahāmudrā and the Geluk Tradition of Tibetan Buddhismはチベット仏教ゲルク派における大印契を対象とした研究書であり、本賞外部選定委員会（カリフォルニア大学バークレー校仏教学センター）から「チベット仏教カギュ派とゲルク派の思想および実践の歴史を研究する上での中心的な書になる」と評価され2020年度沼田仏教書籍優秀賞に選定されました。

本講演会では受賞作の研究内容を踏まえた上で、自然科学及び人文科学全体にまで示唆を与えうる「存在の単純性と複雑性」というテーマにまで言及いただきました。

※沼田智秀仏教書籍優秀賞の概要・過去の受賞者情報は当協会公式サイトにてご確認ください。https://www.bdk.or.jp
本講演の模様は龍谷大学世界仏教文化研究センターのYouTubeチャンネルにてご覧いただけます。https://www.youtube.com/watch?v=PavilJVgiU

Activity 04

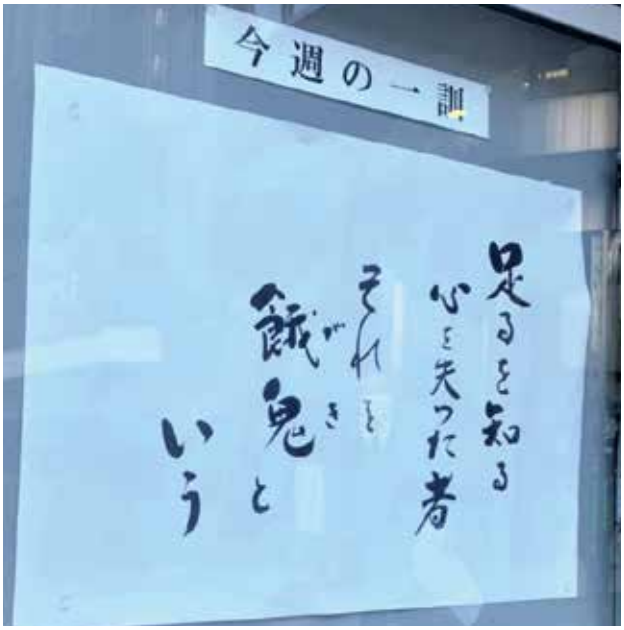
仏教をより身近に「伝道掲示板」「仏教ガチャガチャ」のご紹介

■仏教伝道掲示板

平成31（2019）年から仏教伝道センタービル入口に「伝道標語」を掲示しています。

週ごとに文言を替え、経典の言葉や著名人の名言まで、仏教的だと思われるものを掲示している他、当協会主催イベントをはじめ、各講座の開催をお知らせするポスター等も掲示しています。

掲示板をきっかけに少しでも仏教を身近に感じていただければと願いつつ、今後も当協会の公式SNSにて掲示板の掲載文言を紹介していきますので、過去の投稿と併せてぜひご覧ください。



伝道掲示板

■仏教ガチャガチャ

平成30（2018）年から仏教伝道センタービル1階ロビーに仏像フィギュアなどのガチャガチャ4台と解説リーフレットを設置しています。解説リーフレットには、仏像が所蔵されている寺院についての説明を掲載し、仏像フィギュアとあわせて大変好評をいただいています。

1台は月替りで中身を替え、同時に本体脇に設置しているホワイトボードのメッセージも毎月更新しています。当協会にお越しの際は、ぜひガチャガチャと併せてホワイトボードにもご注目ください。


仏教ガチャガチャ

Activity 05

「仏教聖典を経営に活かす会・生活に活かす会」年間開催報告

当協会では事業目的のひとつに「仏教精神とその文化興隆の為の啓蒙活動」を掲げ多種多様な講座を主催しています。中でも最も歴史が長いのは、宗派にとらわれない「仏教聖典」の学習グループとして、昭和56（1981）年に結成された「仏教聖典を経営に活かす会（以下、経営に活かす会）」です。

経営に活かす会は、仏教精神を学び、それらを事業経営や社会活動に活かし、また人生の道標の一助となるよう、仏教が持つ東洋の叡智と慈悲の精神に一人でも多くの方に触れていただく目的で開催しています。

令和3（2021）年度は、一楽眞師（大谷大学教授）、千葉公慈師（東北福祉大学学長）の両師を招き、月1回（第4金曜日18時～19時）開催しました。

同じく長い歴史を持つ「仏教聖典を生活に活かす会」は、経営に活かす会結成の1年後の昭和57

（１９８２）年に開始。宗派にとらわれず、仏教精神を日常生活に活かすことを目的に「仏教聖典」をテキストとしたお話と和やかな雰囲気の中で仏のみ教えに触れることができる勉強会です。

２０２１年度は、名取芳彦師（密蔵院住職）、前田壽雄師（武蔵野大学准教授）の両師を招き、月１回（第４火曜日13時30分～15時）開催しました。

両講座は、２０２１年度より新たにライブ配信による「オンライン聴講」もできるようになっています。忙しい日々の中でもご自宅や外出先から気軽にご参加いただくことが可能ですので、ぜひご活用ください。


経営に活かす会（講師：一楽眞師）

Activity 06

仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」年間開催報告 於 仏教伝道センタービル

仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」オンラインでも配信！

日本の仏教各宗派における教義や歴史、宗祖の生涯などを取り扱った仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」は、新型コロナウイルス感染拡大により令和２（２０２０）年度は全面中止となりました。令和３（２０２１）年度は感染防止対策を徹底し、仏教伝道センタービルでの会場と同時にＺＯＯＭウェビナーを使用したオンライン講座を開催しました。

内容はこれまで同様、各宗派に関する基本的な教義や宗祖の生涯を解説。さら


5月25日「真言宗・空海」（名取芳彦師）



7月27日「浄土真宗・親鸞」（井上見淳師）

に講師の法話を織り交ぜ日本仏教の様ざまな側面にスポットを当てる講座となっています。

本講座では初の試みでオンライン配信をしたことにより、これまで当協会ビル（東京都港区）へ足を運びづらかった関東圏以外の多くのエリアからご参加をいただくことができました。

■参加者からの声

・会場には遠くて行けないので、オンラインで受講できてありがたいと思いました。

・教養あり、笑いあり、エンタメ（ご詠歌）あり、で楽しめました。実体験に即して話されたのでわかりやすかったです。

・美しい写真なども多く、時間をかけて丁寧にご準備されたプレゼン資料で素晴らしかったです。

・一般的な書籍では伝えきれない行間のお話や視点でお話しいただけて、とても奥行きある解釈ができました。

開催実績（敬称略）

開催月	テーマ	講　師
4月	天台宗・最澄	木内堯大 （大正大学 特任准教授）
5月	真言宗・空海	名取芳彦 （真言宗豊山派密蔵院 住職）
6月	浄土宗・法然	林田康順 （大正大学 教授）
7月	浄土真宗・親鸞	井上見淳 （龍谷大学 准教授）
9月	日蓮宗・日蓮	山口顯辰 （日蓮宗池上本門寺 学監/布教部 執事）
10月	臨済宗・栄西	松本隆行 （臨済宗建長寺派能満寺 住職）
11月	曹洞宗・道元	吉村昇洋 （曹洞宗普門寺 副住職）

特別編

仏教初心者講座「日本仏教における般若心経」開催

於　仏教伝道センタービル

2022年2月26日



講義の様子（渡辺章悟氏）

初級から中級へ　仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」特別編　開催！

前回の特別編「南無阿弥陀仏と南無妙法蓮華経の比較―無量寿経と法華経／法然と日蓮―」【平成31（2019）年度開催、講師：平岡聡氏】に続き、令和3（2021）年度は『般若心経』にスポットを当てた「日本仏教における般若心経」を、渡辺章悟氏（東洋大学教授）を講師として招き、会場およびオンライン配信で開催しました。

数多く存在する般若経典群の説明からはじまり、日本伝来以後の各時代における『般若心経』の解説、識

字率の低かった時代に文字を読むことが出来ない人びとのために制作された『絵解き般若心経』まで、幅広い内容の講義をお届けすることができました。

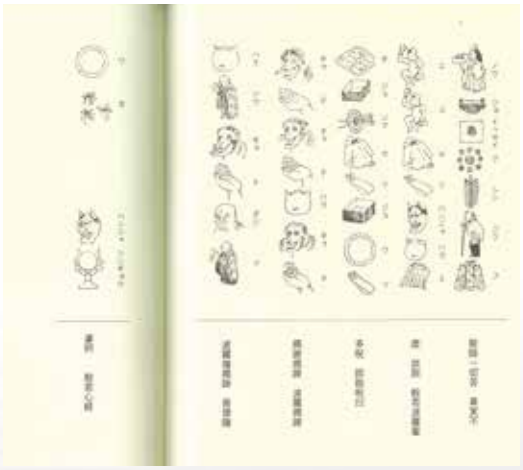
■参加者からの声

・内容的には難しい『般若心経』が、一般の人びとの中にどのように受け入れられ、そしてどのような形で現代にまで生き続けてきたか分かった。

・『般若心経』が、日本だけでなく中国、東南アジア、チベットでも同様の役割を担ったことについても、興味が広がりました。

・『般若心経』の学問的な内容と、今日に至るまでの庶民に伝わってきた信仰の原動力がよく分かりました。





「絵解き般若心経 - 般若心経の文化的研究」の一部
（渡辺章悟著：ノンブル社）

07 Activity 「仏教を初歩英語で学ぶ会」年間開催報告 オンライン開催

「仏教を初歩英語で学ぶ会」は平成23（2011）年に始まり、平成28（2016）年から外国人観光客に英語で仏教を説明できる人材育成に貢献するため「仏教英語ガイドプログラム」を開始しました。今回もケネス田中氏(武蔵野大学名誉教授)、ケアリー田中氏(英語発声学研究家)を講師に招き、本講座を開講しました。修了者は3級コース30名（受講生79名）、2級コース23名（受講生27名）でした。

2級コースを修了した皆さまには「仏教英語ガイド」に適した人材として当協会が推薦書を交付しており、今年度は築地本願寺（東京都・浄土真宗本願寺派）や増上寺（東京都・浄土宗）に4名の修了生を推薦しました。

令和4（2022）年度



2級コース修了式の様子（講師と受講生の皆さま）

は、令和３（２０２１）年度の３級を修了された方を対象とした２級コースのみを開講し、令和５（２０２３）年度より内容を新たに、英語講座の開催を予定しています。より良い〝仏教を英語で伝えることのできる人材の育成プログラム〟を実施できるよう推進していきますので、ぜひご期待ください。


講義の様子（大來尚順師）

山口県にて初開催「お寺de英語」於　超勝寺

「仏教聖典」を基にした仏教英語講座の開講を目的に、当協会としては初めて山口県で仏教英語講座「お寺de英語」を開催、10名の方にご参加いただきました。

超勝寺（山口市・浄土真宗本願寺派）を会場として、講師の大來尚順師（超勝寺住職）が、①ブッダの生涯、②ブッダのさとり、③ブッダのさとり２、④煩悩の受け止め方、⑤ブッダの言葉、⑥最後の教え、の６つをテーマに『和英対照 仏教聖典』を使用しながら日本語と英語の両方で講義を行いました。

全６回終了後のアンケートでは「難しい日本語で勉強するよりも英語で勉強したほうがよく理解できた」「『仏教聖典』を初めて読んだが、とても分かりやすく仏教を学ぶことができた」など参加者から好評をいただきました。

Activity 08

「仏教ヨガ講座」年間開催報告 於　仏教伝道センタービル

令和３（２０２１）年度も引き続き新型コロナウイルス感染防止のため、参加人数を制限しながら会場・オンラインにて同時開催しました。

２０２１年度の「仏教ヨガ講座」は、講師にヨガ指導者で高野山真言宗僧侶のＭＯＭＯ（モモ）先生を迎え、ヨガ60分、法話10分、瞑想20分という内容で毎月１回開催しました。

ヨガのテーマは季節に合わせて設定。例えば立春の前日が講座開催日の場合、花粉などで起こる呼吸器系のアレルギーや眠気、だるさを和らげるためのポーズを中心に行いました。

そしてミャンマーの瞑想道場で修行した講師による瞑想の時間では、主にヴィパッサナー瞑想というインドの最も古い瞑想法のひとつを行います。この瞑想法はブッダによって再発見されたといわれ、観察する対象に集中し、物事をありのままに観ることによってイライラや不安な心を鎮めます。

ヨガと瞑想を日々の生活で実践することで自分の体や心と向き合い、仏教とのつながりを感じていただいています。



09 Activity

連続仏教講座「世界の仏教に学ぶPart Ⅱ」年間開催報告 於 仏教伝道センタービル

東南アジア地域に広がった仏教の特徴と最新の知見を専門家に伺いました。

平成31（2019）年度にスタートした「世界の仏教に学ぶPart Ⅰ」に引き続き令和2（2020）年度に「Part Ⅱ」を計画しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大にあたり中止を余儀なくされ、令和3（2021）年度に改めて開催となりました。受講いただいた皆さまは、仏教伝道センタービルに来場いただく会場参加、またはオンライン参加のいずれかを選択。全7回の講義を開催しました。

講座内容は、2019年のPart Ⅰが北伝仏教に焦点を当てたのに対して、Part Ⅱでは東南アジア地域に広がった仏教にスポットを当てました。講師の実体験に基づく話や、最新の地域研究の成果を披露していただき、参加者からも好評の声が寄せられました。

また、オンライン参加者の大半は首都圏外からの受講で、これまで仏教伝道センタービルでの開催講座に直接来場することが難しかった方がたへ仏教に触れるひとつのきっかけを提供できたことは、オンライン配信による新たな成果と言えるでしょう。

※当協会主催講座への参加のお申し込みや今後の開催日程など最新情報については、当協会公式サイトをご確認ください。
https://www.bdk.or.jp



5月27日 ラオス（池上要靖氏）


6月17日 カンボジア（小林知氏）

2021年度開催実績（敬称略）

国	講 師	日 程
タイ	矢野秀武 (駒澤大学教授)	4月22日
ラオス	池上要靖 (身延山大学教授)	5月27日
カンボジア	小林知 (京都大学東南アジア地域研究所教授)	6月17日
インドネシア	木村敏明 (東北大学教授)	7月29日
ベトナム	石井公成 (駒沢大学名誉教授)	8月26日
ミャンマー	藏本龍介 (東京大学東洋文化研究所准教授)	9月16日
マレーシア	黄蘊 (尚絅大学准教授)	10月28日


8月26日 ベトナム（石井公成氏）


10月28日 マレーシア（黄蘊氏）

令和3(2021)年度
BDKシンポジウム開催

Symposium

各講演概要

第25回

テーマ：「どうなる仏教～アフターコロナ時代のあり方とは～」
於　仏教伝道センタービル　2021年９月13日

鵜飼秀徳氏（京都 浄土宗 正覚寺住職・ジャーナリスト）と薄井秀夫氏（株式会社寺院デザイン代表取締役）をお迎えし、第25回BDKシンポジウム「どうなる仏教」を開催しました。

鵜飼氏には「お寺の現在と未来」、そして薄井氏には「これからのお寺の役割」をテーマに講演をいただきました。鵜飼氏は新型コロナウイルスの感染拡大でお寺はどう変容したのかを、各種調査結果をもとに分析、「お寺のDX化」「形骸化した寺院の消滅」等、今後の展望をお話くださいました。一方、薄井氏はコロナ禍と仏事に関する調査結果をもとに、人びとの寺院に対する意識を明らかにしながら、お寺を心の拠り所にしたいという人びとの思いに応えることが出来ていないのが現状であることをお話されました。最後に、お寺が淘汰されていく時代では今まで以上に人びとの心に寄り添うことが重要になっていくこと、そして形骸化しがちな儀礼の見直しが大きな課題となるとの結論をお二人からいただきました。



鵜飼秀徳氏


薄井秀夫氏

第26回

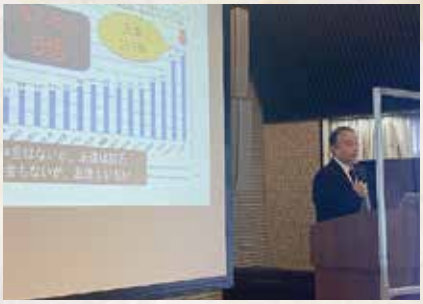
テーマ：「宗教の未来を話そう2021～ポストコロナの宗教のゆくえ～」
於　仏教伝道センタービル　2021年11月６日

格差や対立などの社会課題が、コロナ禍により鮮明に浮き彫りとなったいま、誰もが生きやすい社会のために宗教にできることは何かを考えるシンポジウムを開催しました。

新型コロナウイルスの勢いが止まる気配のない状況下ではありましたが、感染対策を充分に行った上で、会場とオンラインの同時開催にて第26回BDKシンポジウム「宗教の未来を話そう2021～ポストコロナの宗教のゆくえ～」を開催しました。長年ホームレス支援を行っている奥田知志氏（東八幡キリスト教会牧師・NPO法人抱樸理事長）、さまざまな社会問題をテーマに執筆活動をしている田口ランディ氏（作家）、身よりのない人の葬

送支援や炊き出しを行う「ひとさじの会」を発足した吉水岳彦氏（浄土宗光照寺副住職）の3人を講師にお迎えました。

奥田氏は「すべての命、命のすべてにつながり仕える教会へ」、田口氏は「宗教なき信仰のかたち」、吉水氏は「仏教の視点から行う社会貢献活動」をテーマに講演をいただきました。クロストークでは伝統宗教が抱える矛盾や可能性についてそれぞれの立場から活発に意見交換を行い、宗教の未来予想図を示すことができました。


奥田知志氏


田口ランディ氏


吉水岳彦氏

第27回

テーマ：「現代社会の分断と調和を考える」
於　仏教伝道センタービル　2022年３月５日

過去の偉人たちが現代社会へおくるメッセージとは？　2021年10月に発売され大きな反響を呼んでいる『最澄と徳一 仏教史上最大の対決』（岩波新書）の著者、師茂樹氏（花園大学教授）を講師に迎え、「現代社会の分断と調和を考える」をテーマに第27回BDKシンポジウムを開催しました。

現代社会における監視資本主義や分断する社会における対話の重要性についてご講演いただき、前半は講師近著『最澄と徳一　仏教史上最大の対決について』の著作背景から、天台宗・最澄と法相宗・徳一との間で行われた論争の内容、「最澄対徳一」という二項対立ではなかったこと、どのような手法を用いて論争をしていたのか、なぜ最澄は「論争史」を書いたのかについての解説。

後半では監視資本主義が進む現代でどのように人々が調和できるのかについて、前半の内容を踏まえて論じられ、ネット社会の現状から、調和は実現しなくても自己を変化させることは可能であるとし、そのツールとして「対話」は重要であり、その作法を知っておくこと、共存や併存を目指すことがひとまず大切であることが示されました。


師茂樹氏

過去に開催された「BDKシンポジウム」については（一部を除く）、当協会公式サイトにてご視聴いただけます。また今後の開催予定などについても随時掲載予定です。ぜひご覧ください。　https://www.bdk.or.jp

ちょっと、ひと休み

仏教伝道協会SNSのご紹介

(Facebook/Instagram合計)



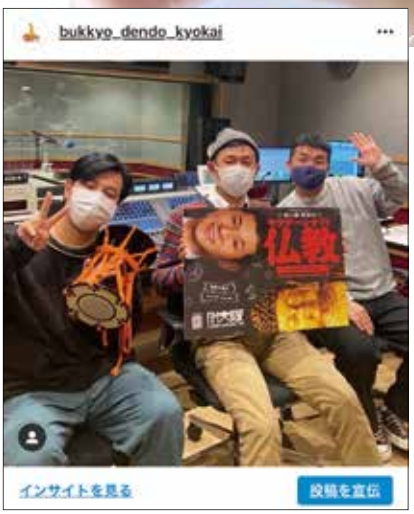
当協会の公式SNSはFacebookとInstagramがあり活動の紹介やイベント・講座の告知を行っています。現在Facebookは約2,400人、Instagramは約1,000人の皆さまにフォローいただいており日々進化を続けています。１年間たくさんの投稿をしましたが、特に人気の高かったものをいくつか紹介します。

● 令和4 (2022) 年1月5日

245いいね／2089リーチ

「サタデー★ナイト仏教　2022年1月1日放送回」

「サタデー★ナイト仏教」放送回の紹介投稿で、最も大きな反響があったのが、お笑い芸人のすゑひろがりずさんがゲストの回でした。すゑひろがりずファンの方がたが番組出演をSNSでシェアしてくださったのが大きな要因でした。





● 令和3 (2021) 年8月16日

165いいね／4495リーチ

「BDK商品案内
釈尊絵伝すごろく 煩悩／復刻版 浄土双六」

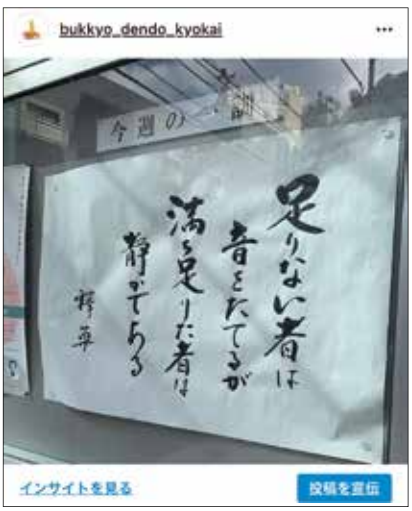
当協会が製作したボードゲームの発売告知が最も多くの人に届く（リーチ）結果となりました。シェア数が多く、実際にSNSでこのボードゲームを知り購入してくださった方もいました。

● 令和3 (2021) 年4月13日

247いいね／2645リーチ

「今週の一訓　足りない者は音をたてるが
満ち足りた者は静かである　釈尊」

有名人の名言を含め様ざまな言葉を紹介した中で、最もいいねの数が多かったのは釈尊の言葉でした。それだけ仏の言葉は人びとの心に届く力を持っているということでしょうか。







左：会長室の福山諦法禅師のご染筆

右：法堂に設けられた火屋（四門）

追悼

第7代理事長　福山諦法禅師

令和3（2021）年9月10日、仏教伝道協会第7代理事長、曹洞宗大本山永平寺第79世福山諦法禅師（慈航玄徳禅師　絶学諦法大和尚）が世寿90歳にてご遷化されました。

福山禅師は愛知県豊川市妙厳寺（豊川稲荷）の御住職、曹洞宗管長、大本山永平寺貫首などの要職を歴任され、宗門の発展並びに仏法興隆のため、多くの人びとをご教化くださいました。

当協会とのご縁は平成7（1995）年に理事にご就任いただいたのを始まりに、平成20（2008）には理事長、さらに平成25（2013年）から2年間は名誉会長をお務めいただき、当協会発展のために多大なるお力添えをくださいました。

12月16日にご本葬が永平寺様で厳修されるにあたり、当協会木村清孝会長より弔辞を述べさせていただく機縁を頂戴いたしました。

木村会長は弔辞の中で、折りに触れて感じた禅師の温かなお人柄について述べられ、禅師より賜りました達磨大師の句「一華開五葉」のご染筆は今も会長室を荘厳し、私どもを元気づけ、精進を重ねなければとの思いをあらたにさせていただく大切なよすがとなっております と禅師に深甚なる感謝の意を表されるとともに、御恩に報いるべくこれからも努めてまいりますとお誓いになりました。

ここに仏教伝道協会関係者一同は、福山諦法禅師より頂戴しましたご厚情に深く感謝申し上げますとともに、哀心より哀悼の誠を捧げます。

合　掌



弔辞を述べられる木村会長

海外協力機関のご紹介

北米地区
米国仏教伝道協会
ハワイ仏教伝道協会
カナダ仏教伝道協会

中米地区
メキシコ仏教伝道協会
メキシコ恵光寺

南米地区
南米仏教伝道協会

欧州地区
ヨーロッパ仏教伝道協会
ドイツ恵光日本文化センター
英国仏教伝道協会
ポーランド仏教伝道協会

アジア地区
アジア仏教伝道協会
台湾仏教伝道協会

日本国外には、現在９ヵ国10ヵ所にそれぞれ独立した“仏教伝道協会（通称：BDK）”があり、日本の仏教伝道協会と相互に連携しながら、特に「仏教聖典」の頒布活動を通じて仏教精神、仏教文化を伝えています。

海外協力機関のご紹介



お問い合わせ一覧

●各国での「仏教聖典」頒布やその他活動の詳細に関するお問い合わせは、お近くの仏教伝道協会までお願いします。

北米地区

米国仏教伝道協会
BDK America

1675 School Street,
Moraga, CA 94556 U.S.A.
Tel: +1(925)388-0067 Fax: +1(925)388-0331
http://www.bdkamerica.org（対応言語：日本語・英語）

ハワイ仏教伝道協会
BDK Hawaii

1757 Algaroba Street,
Honolulu, HI 96826, U.S.A.
Tel: +1(808)942-1511 Fax: +1(808)942-2622
E-mail: bdkshi@hotmail.com
http://www.bdkhawaii.com（対応言語：英語）

カナダ仏教伝道協会
BDK Canada

c/o Mitutoyo Canada Inc.
2121 Meadowvale Blvd.
Mississauga, ON, CANADA L5N 5N1
Tel: +1(905)821-6202 Fax: +1(905)821-4968
E-mail: honjo@bdkcanada.com
http://www.bdkcanada.com（対応言語：日本語・英語）

中南米地区

メキシコ仏教伝道協会／メキシコ恵光寺
BDK Mexico

Prolonagación Eugenia No. 17, Colonia Nápoles,
Alcaldía Benito Juarez, CDMX, C.P.03810, MEXICO
Tel: 52{55}5543-0507
Email: difusion.eko@gmail.com（対応言語：日本語・スペイン語）

南米地区

南米仏教伝道協会
BDK South America

a/c Mitutoyo Sul Americana Ltda.
Rodovia Índio Tibiriçá 1555, BAIRRO RAFFO, CEP 08620-000
SUZANO-SP, BRASIL
Tel: +55(11)5643-0006 Fax: +55(11)5641-3745
E-mail: bdk@mitutoyo.com.br（対応言語：日本語・ポルトガル語）

欧州地区

ヨーロッパ仏教伝道協会／ドイツ恵光日本文化センター
BDK Europe/EKŌ-Haus der Japanischen Kultur e.V.

Brüggener Weg 6,
40547 Düsseldorf, GERMANY
Tel: +49(211)577918-0 Fax: +49(211)577918-219
E-mail: bdk@eko-haus.de
http://www.eko-haus.de（対応言語：日本語・ドイツ語・英語）

英国仏教伝道協会
BDK U.K.

c/o Mitutoyo(UK)Ltd. Joule Road, West Point
Business Park, Andover, Hampshire SP10 3UX U.K.
Tel: +44 1264-353123 Fax: +44 1264-354883
E-mail: BDK.UK@mitutoyo.co.uk（対応言語：英語）

ポーランド仏教伝道協会
BDK Poland

c/o Mitutoyo Polska Sp.z o.o.
ul. Graniczna 8A 54-610 Wroclaw, POLAND
Tel: +48(71)354 83 50 Fax: +48(71)354 83 55
（対応言語：ポーランド語・英語）

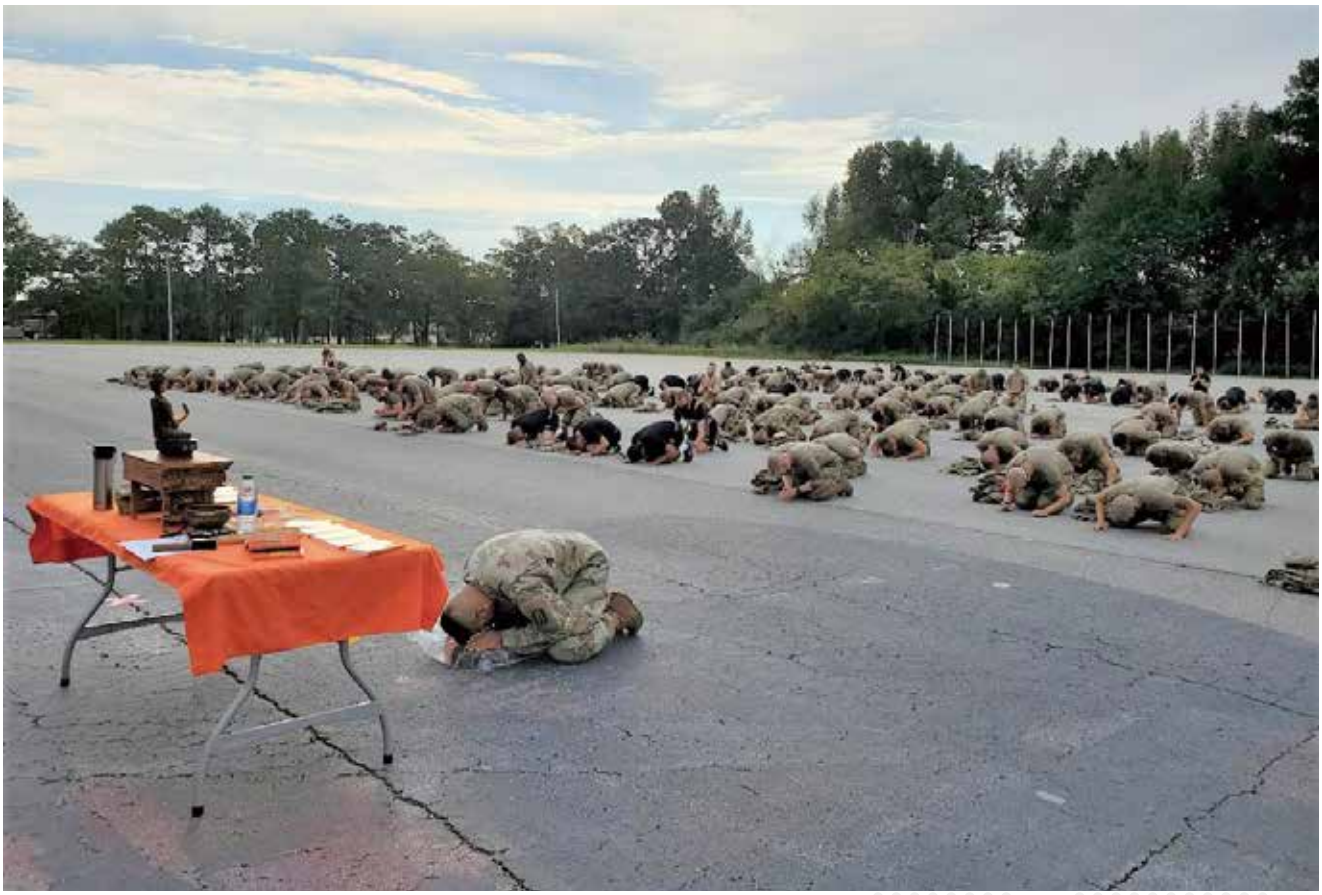
日本以外のアジア地区

アジア仏教伝道協会
BDK Asia

c/o Mitutoyo Asia Pacific Pte. Ltd.
24 Kallang Avenue, Mitutoyo Building,
Singapore, 339415, SINGAPORE
Tel: +65 6294-2211 Fax: +65 6299-6666
E-mail: bdk@mitutoyo.com.sg
https://bdkasia.org（対応言語：日本語・英語・中国語）

台湾仏教伝道協会
BDK Taiwan

4F., No.71, Zhouzi St., Neihu Dist.,
Taipei City 114, TAIWAN
Tel: +886(2)5573-5913 Fax: +886(2)8752-3267
E-mail: bdktaiwan@yahoo.com
https://www.bdk.tw（対応言語：日本語・英語・中国語）



ジョージア州・フォート・ベニング陸軍基地での法要の様子（アメリカ）

米国仏教伝道協会 BDKアメリカ

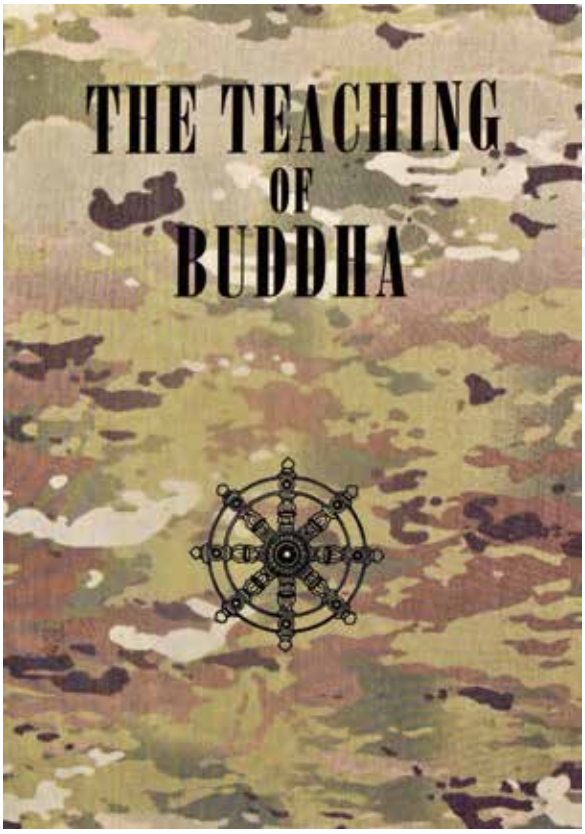
（アメリカ・カリフォルニア州）

令和3（2021）年の活動報告

長引く新型コロナウイルスの感染拡大の影響で難しい状況が続く中、アメリカ仏教伝道協会（以下BDKアメリカ）では、引き続き電話、メール、Zoomなどを使用してできる限りの活動を行いました。ホテルへの「仏教聖典」の寄贈が低調な中でも3，363部を寄贈し、文庫版を再版することになりました。そして「仏教聖典」のオーディオ版を開発し、Audible.comとAmazonにて販売を開始しました。

BDKアメリカでは、アメリカ軍への「仏教聖典」寄贈を継続し、2021年は1，250部を各基地へ送りました。大変好評をいただき、特別にカモフラージュ柄、軍隊仕様の「仏教聖典」も準備しました。令和4（2022）年1月には、ジョージア州・フォート・ベニング陸軍基地の教誨師より5，000部の寄贈依頼がありました。同基地では、毎週日曜日の法要には数百名の軍関係者たちが参加しているそうです。

「仏教聖典」の他にも*Learning the Wisdom of Enlightenment*



軍隊仕様の「仏教聖典」表紙（アメリカ）

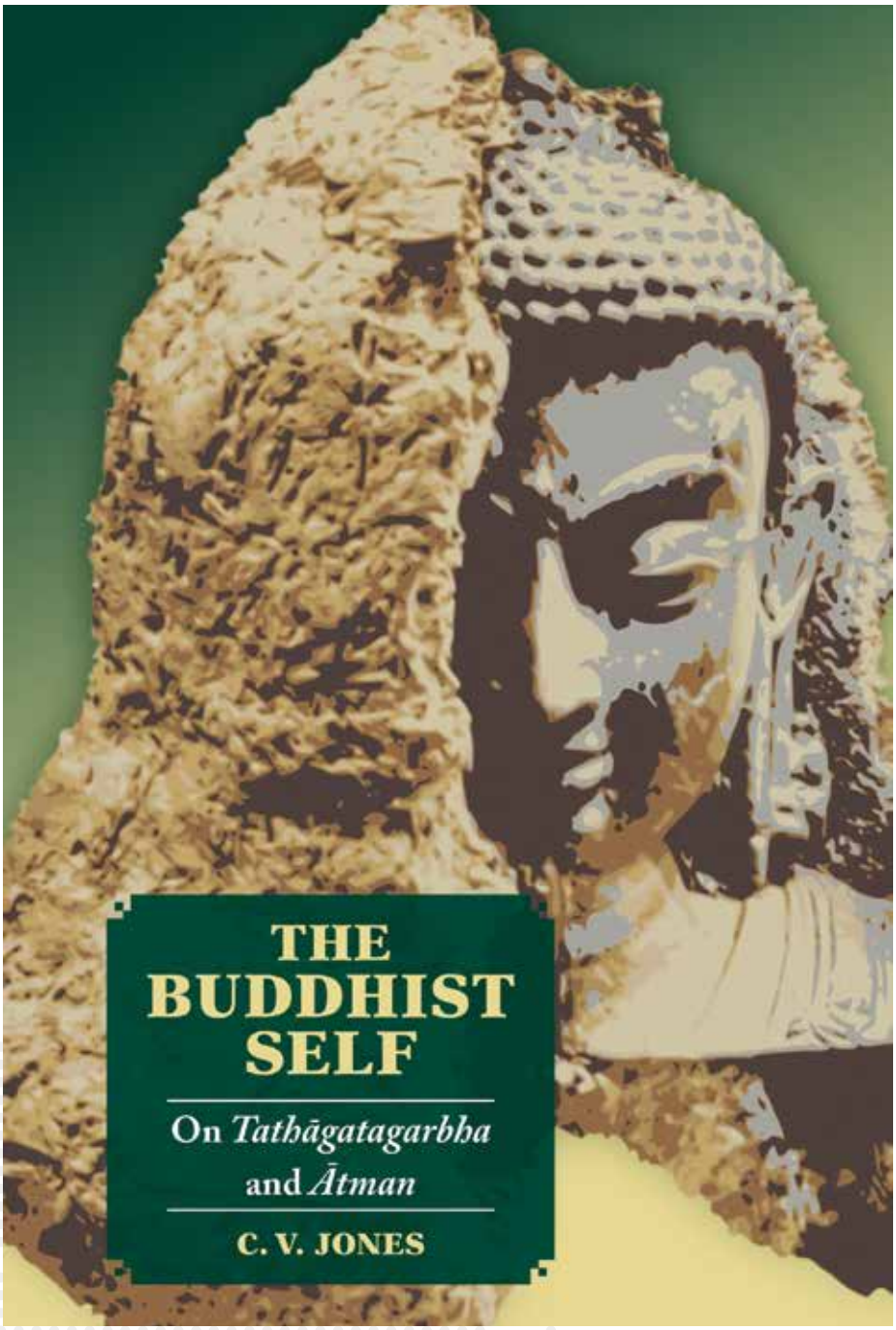
（英語版『さとりの知恵を読む』）が好評で、印刷版とダウンロード版あわせて3，884部を頒布しました。

「英訳大蔵経」シリーズは一般の読者には、なかなか読み解くことが難しいのですが、こちらも好評をいただき、販売・寄贈を併せて5，000部以上、計12，589ダウンロードされました。2021年は新刊として3巻を刊行しましたが、相当な数の反響があることが予想されます。

「沼田仏教講座」については、令和4（2022）年にはカリフォルニア大学バークレー校にて沼田センターの開所が予定されており、シカゴ大学での新たな沼田日本仏教学教授職の創設も正式に決定しました。

「沼田智秀仏教書籍優秀賞」については、クリストファーV．ジョーンズ博士（英国・ケンブリッジ大学）の著書*The Buddhist Self: On Tathāgatagarbha and Ātman*が受賞し、2021年11月5日にオンラインで受賞式およびシンポジウムを開催しました。

そしてBDKアメリカでは新たな「仏教聖典」頒布の方法として宿泊施設や研究機関へ送ることができるQRコードを作成しました。QRコードを読み込むことで「仏教聖典」だけではなくBDKが刊行する冊子、パンフレット類など本誌「道」も読むことができるようになります。

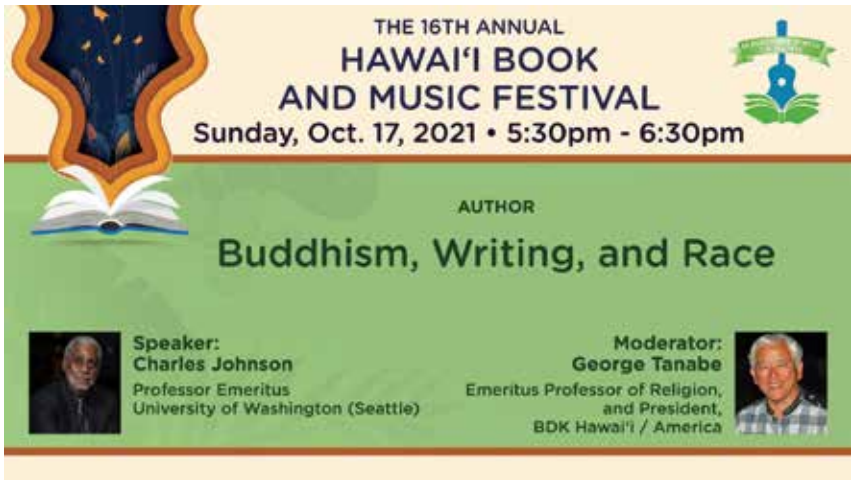


「沼田智秀仏教書籍優秀賞」受賞著書表紙（アメリカ）

ハワイ仏教伝道協会
BDKハワイ
（アメリカ・ハワイ州）

令和3（2021）年の活動報告

2021年も新型コロナウイルスの影響でハワイ仏教伝道協会（以下BDKハワイ）の活動も大幅に縮小することを余儀なくされました。「仏教聖典」のホテルへの寄贈依頼が減る中で新たな寄贈先を模索し、ハワイ州や米国本土にある刑務所への「仏教聖典」紹介活動を開始しました。教誨師の方がたからの反響は非常に好意的で25の刑務所から1，000部を超える寄贈依頼がありました。また各寺院に置いていただいている書籍も大変好評で、特



Buddhism, Writing, and Raceフライヤー（ハワイ）

にMessages from the Buddha（英語版「ブッダの教え」やLearning the Wisdom of Enlightenment（英語版『さとりの知恵を読む』）が令和2（2020）年と比較しても2倍以上の販売・寄贈数となりました。

BDKハワイでは、Zoomを使用した様ざまなオンライン講座を開催しました。BDKハワイ・フジタニ宗教間対話プログラムを通じ、ネイティブ・ハワイアン、仏教徒、ユダヤ教徒のパネリストを招いた〝Interfaith Conversations on Overcoming Polarization（分断をなくすための宗教間対話）〟を開催。そして仏教的、キリスト教的視点で〝How Families Support their Children and Teens During Covid-19（コロナ禍で家族はどのようにして子どもや10代の若者を支援するか？）〟を議論。仏教、カトリック、ユダヤ教をそれぞれ信じる高校生・大学生が〝Where's My Religion? How Does My Faith Support My Life?（私の宗教はどこ？信仰はどのように人生を支えることができるのか？）〟というテーマのもと人生における宗教の役割を話し合いました。

その他〝ハワイ書籍・音楽祭〟で開催したチャールズ・ジョンソン氏（米国内では著名なアフリカ系アメリカ人著者・仏教実践者）との〝Buddhism, Writing and Race（仏教、書くこと、人種）〟をテーマにしたオンライン対談を行いました。BDKハワイとハワイ大学が協賛の上で開催し、アメリカ国外からも多くの視聴がありました。

そして最後に、2021年は職員のクライド・ウィットワース氏がBDKハワイの頒布責任者として加わって10年目の年でした。〝クライドはBDKハワイビルの運営管理をはじめとしてBDKハワイの活動に関する全てを企画・実行、そして「仏教聖典」など多くの書籍の頒布活動を積極的に行ってくれています。仏教を多くの方に理解していただけるよう献身的な働きでBDKハワイを支えてくれて本当にありがとう！〟（BDKハワイ理事長：ジョージ・タナベより）

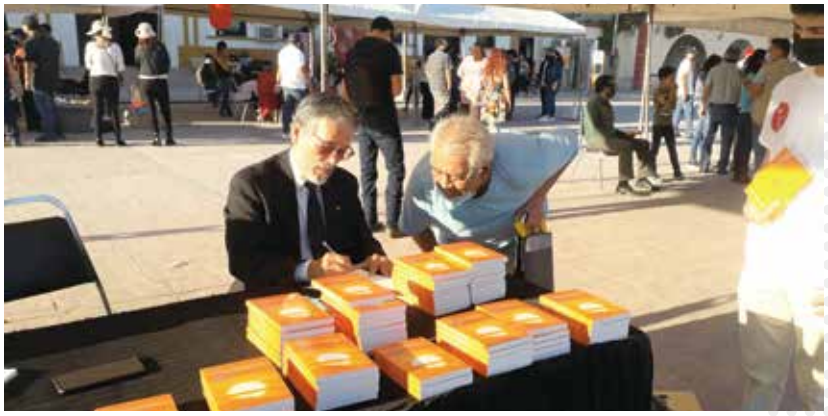
メキシコ仏教伝道協会 BDKメキシコ
（メキシコ）

令和3（2021）年の活動報告

メキシコ仏教伝道協会（以下BDKメキシコ）では、現在改修工事を進め、リニューアルオープンに向け準備をしています。2021年末には、職員の横尾が皆さまのご協力のお蔭で無事に僧侶「釋墨咲」となることができました。今後も法名の通り、メキシコ（墨西哥）に仏法の花を咲かせるべく精進してまいります。

長引くコロナ禍と改修工事のため、対面での活動はほとんどできませんでしたが、2021年11月15日に、日本人移住120周年記念行事として、炭鉱事故により命を落とされた移民の方がた、身寄りなく亡くなっていった方がたの供養として慰霊法要が企画・実施されました。

明治33（1900）年11月15日、日本初の移民団がメキシコを目指し横浜を出港しました。その内82名は炭坑で働く予定で、ラス・エスペランサス（「希望」という意


「仏教聖典」を配布する戸高住職



法要を営む戸髙住職（メキシコ）

味）の村に到着。その後、明治40（1907）年までに、約3，000名が移民会社を通して入植したそうです。しかしながら炭鉱では事故などにより100名近くの犠牲者が出ており、その犠牲者たちは塹壕のように掘られた溝の中に、名も知れず無造作に葬られたそうです。そしてその多くが希望を胸に海を越えた20代の若者でした。

法要に参列された方がたは、長年の願いであった僧侶を迎えての供養が実現したという喜びと感謝を様ざまな形で表現して下さいました。また、炭坑跡地からは、仏像も発掘されたそうで、当時から仏教に強い関心を寄せて下さっていたことがわかりました。今回の記念行事を通して、外国で亡くなった日本人の歴史を語り継ぎ、祖先と子孫の絆を守り繋げてゆくことも、仏教の大切な使命のひとつであると深く感じました。

台湾仏教伝道協会 BDK台湾
（台湾）

令和3（2021）年の活動報告

2021年、台湾南東にある南林尼僧苑（http://www.nanlin.org/）および同苑のカナダ・バンクーバー支部に「英訳大蔵経」全61巻を寄贈しました。

尼僧苑の担当の方が〝大蔵経〟をウェブ検索したところ台湾仏教伝道協会（以下BDK台湾）の公式サイトに辿り着き、仏教伝道協会発行の「英訳大蔵経」の存在を知って連絡をいただきました。BDK台湾にとって初めての「英訳大蔵経」についてのお問い合わせでしたが、日本の仏教伝道協会およびBDKアメリカの協力を得た上で滞りなくお届けすることができ、また同時に「仏教聖典」も40部寄贈しました。

長引く新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、宿泊施設への「仏教聖典」の頒布活動は難しい状況が続いているため新たな寄贈先を検討していました。「里長」と呼ばれる日本でいうところの町内会会長の皆さまを通じて各町内へのアプローチを試み、2021年12月に頒布を実施したところ想像以上に反響が大きく多くの方がたに喜んで受け取っていただけました。これからも様ざまな可能性を模索し、「仏教聖典」を一人でも多くの方へ届ける活動を続けていく予定です。



南林尼僧苑（台湾）

アジア仏教伝道協会
BDKアジア
（シンガポール）

令和3（2021）年の活動報告

●タイ・クーハン高校への「仏教聖典」寄贈

2021年2月、アジア仏教伝道協会はミツトヨ・タイランドの協力のもとタイ北東部に位置するシーサケート県にあるクーハン高校へ「仏教聖典」1，000部を寄贈しました。クーハン高校は昭和25（1950）年に設立され、2021年12月現在で3，404名の学生と170名の教師が在籍しています。首都バンコクから478㎞離れた、カンボジアとの国境に近いシーサケート県クーハン地区にある公立高校です。

今回寄贈された「仏教聖典」は、同校の科学教師であるパンヤ・マ



クーハン高校周辺地図（タイ）

ディー博士が受け取り、クーハン高校近隣の学校や図書館を利用する学生・教師の皆さまへも配布してくださっています。パンヤ先生は熱心な仏教徒でもあり〝「仏教聖典」がタイだけではなく世界中に仏教を伝えることができる重要な鍵になる〟と感謝されていました。



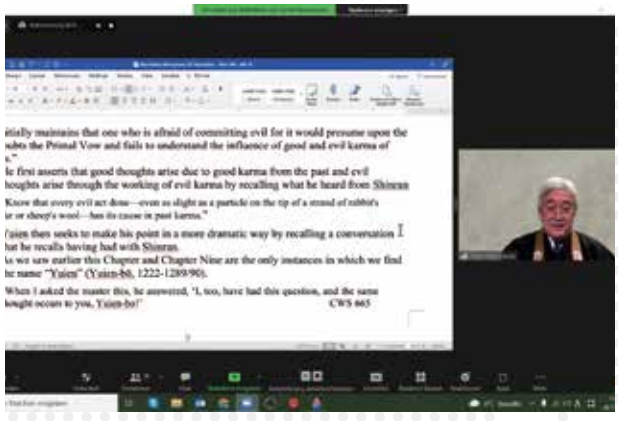
「仏教聖典」を受け取るDr. Panya（タイ・クーハン高校）

ヨーロッパ仏教伝道協会
恵光日本文化センター
BDKヨーロッパ
（ドイツ）

令和3（2021）年の活動報告

新型コロナウイルスの世界的な感染が始まって以降、参拝者に本堂を開放しての法要は2022年2月現在でも行えずにいます。そこで2021年2月より、本格的にオンラインでの一般法要（月例勤行、彼岸会、親鸞聖人降誕会、盂蘭盆会等）を始めました。僧侶が本堂から読経を生配信し、ドイツ語と日本語の法話を聴聞した後、歓談の場も設けています。オンライン開催にしたことにより、遠方に住んでいるために今まで参拝できなかった方がたにご参拝いただけるようになり新たな参拝者が増えました。反面、完全にオンラインになると既存の参拝者の中には技術的な問題によって参加できなくなったということもありました。

11月には報恩講（浄土真宗宗祖である親鸞聖人の祥月命日の法要）が厳修され、国外から講師を招く「報恩講セミナー」が3日間にわたり開催されました。2021年の「報恩



オンライン報恩講セミナー　デービッド松本先生（ドイツ）



オンライン報恩講法要（ドイツ）

講セミナー」並びに報恩講法要もオンラインで実施し、11月26日から28日の期間で開催。講師のデービッド松本師（米国仏教大学院学長）には米国から『歎異抄』をテーマに講義をいただきました。オンラインでの開催ということもあり、欧州のみならず普段は参加が難しい日本、インド、アメリカ等世界中からご参加いただくことができました。

オンライン法要を活用する一方で、一家族単位での個人法要は対面でも実施しています。中でも2021年は個人法要が許可されていた計9ヵ月の間だけでも初参式が23件、七五三法要が25件と、ともに過去最多数でした。容易に日本に一時帰国できない状況が続く中で、子供の成長を祝う節目の行事を恵光寺で執り行いたいという家族が増えています。

また2021年7月には、久しぶりにお茶会も開かれました。今回は新型コロナウイルス対策のため、スペースが限られる日本家屋ではなく、恵光ホールにて椅子と机を準備の上、立礼にて開催されました。完全予約制で、3回に分け（それぞれ14名、15名、15名が来場）、従来から指導をしてくださっている4名の裏千家の茶道家のお点前が行われました。


オンライン法要の様子（ドイツ）





初参式の様子（ドイツ）

環境（かんきょう）

現代ほど環境が問題になっている時代は、過去になかったと思います。
人間の欲望の肥大化が環境破壊の原因です。
私たちの欲望は、より便利な生活を追求し続けてやみません。
地球の温暖化により、異常な高温が続き、
多数の死者を出している地域があり、
降り続く豪雨で大洪水になり、たくさんの田畑を失い、
多数の死者を出している国もあります。
増え続けるゴミ、またそれらの処理より出るダイオキシン、
増え続ける車から出る排ガスによる空気の汚染、
また日常生活になくてはならない水の汚染、
挙げればきりがないぐらいの環境問題、犯人はすべて人間です。
環境問題は人間の問題です。
その人間自身に目が向けられない限り、
環境問題の真の解決はないと思います。
大きな「いのち」の世界の真ん中で、
他のすべての「いのち」と共にあるのが、
私たちの「いのち」という原点に返ることがなければ、
環境は汚染され続けるでしょう。

（仏教伝道協会　第二代会長　沼田智秀　『ささえあってー百八つのおもいー』より）